

## 仙台市泉区泉中一地区民生委員児童委員協議会

### ～震災から1年11カ月、当時を振り返って～

(平成25年2月14日掲載)

泉区では、現在も多くの方が借り上げ住宅に入居しています。泉区泉中央地区では毎月1回、社協で行なっているサロン活動に民生委員・児童委員も参加しています。被災された方にも毎回お声がけをし、被災された方5、6名と地域の高齢者が15名ほど、委員が4名参加しています。サロンでは運動教室のあと、茶話会を行なっています。茶話会では、今でも被災された方が涙ながらに被災した当時のことを話されます。当時の話は止まりません。こちらも涙なしには聞くことができませんが、話ができる機会があつてうれしいと言ってもらえます。

あの震災からもうすぐ2年が経とうとしています。今回は、当時の様子や活動を振り返って、全国の委員の皆さんのご参考になればと思い、ご紹介いたします。

平成23年3月11日午後2時46分、激震でした。家は大丈夫でしたが、室内は足の踏み場もありません。幸いケガはありませんでした。我に返り、高齢者の方々の安否確認に向かいましたが、マンションは停電で連絡が取れませんでした。町内会の役員の方々の準備により、菅間集会所が一時避難所となりました。

担当地区は違いますが、障がい者で日中一人暮らしの方に薬と毛布を持つよう声がけして避難していただきましたが、その夜に息子さんと連絡が取れ、自宅に戻られ一安心しました。

町内会役員の機転で明かりが灯った集会所では、約70名がともに夜を迎えましたが、余震が続き、一睡もできずに12日の朝を迎え、町内会役員の方々と協力し朝食、昼食の炊き出しを行ないました。

午後3時過ぎ、ご近所5世帯の方々と話し合い、一緒に泉中央地区の指定避難所（商業高校）に移動しました。指定避難所では自衛隊も入って、自家発電や簡易トイレが設置され、毛布もたくさんあり、先生方が生徒さん達の給食の材料で、一生懸命炊き出しを準備している姿がありました。

避難者名簿に民生委員と書き込みをしたところ、早速女子トイレの掃除の話がありました。汚れを落とし、土足で使用するため、ダンボールを敷きつめて対処しました。

地震当日、避難者数は約600名だったそうですが、12日は120名ほどが体育

館で過ごしていました。先生方の指示のもと、お手伝いをして過ごしましたが、その間に避難者の年齢層を調べておきました。統合失調症の方が2名おり、先生からの要望により、関わりをもつことになりました。その方とは現在でも電話連絡を取り合っています。

14日、市役所の職員が校長先生とお話をされ、先生方は学校を守るため、避難所のサポーターにはなるが、避難所の運営は皆さんで行なってくださいとの説明がありました。区役所の職員から避難所のリーダーになってほしいとの依頼がありました。この避難所で民生委員・児童委員は1人でしたので、大学生に補佐をお願いしながら一緒に運営にあたりました。

救援物資が置かれている部屋に初めて入った際には、ないと思っていた物資があり、搬入明細書のチェックの重大さを知り、毎日変わる職員と連絡を十二分に取るように努めました。

高齢者の方々には常に声がけをしたり、トイレに行く際の介助を行ったり、物資を見て3食の献立を考えたり、寒さ対策に北側非常口ドアの内側にダンボールを張る事を提案したり、避難所の皆さんの協力を得ながら行なっていました。朝のゴミ集めやモップがけは日課として皆さんが自発的に動き、心を一つにした共助でした。

近所の店舗からおにぎり、スープなど、また個人の方からもりんごの差し入れをいただいたほか、事業者の方からはマット、モップの貸し出しもあるなど、人々の優しさ、温かさへ感謝の気持ちと、人と人の絆の強さに世の中まだまだ捨てたもんじゃない、大丈夫だ、という思いがこみ上げてきました。

一週間お世話になり、19日ようやく自宅に戻りました。区役所職員から電話があり、夜の会合に出席すると、議題は避難所を21日で閉鎖するため、皆さんの協力をいただきたいということでした。なかには難色を示す方もいらっしゃいましたが、その方に「我が家で良ければどうぞ」と声をかけると、それを機に和やかになり、皆さん納得し、散会となりました。